

## パプリカの接ぎ木栽培における台木品種が穂木の生育, 収量および果実品質に及ぼす影響

柴戸靖志<sup>1)</sup>・井上恵子・石坂 晃  
(<sup>1)</sup>福岡県農業総合試験場八女分場・福岡県農業総合試験場)

Yasushi Sibato, Keiko Inoue and Akira Ishizaka :  
Effects of Rootstock Varieties on Scion Growth, Yield and Fruit Quality in Paprika

パプリカ (*Capsicum annuum* L.) の土耕栽培では, 土壤病害の発生が生産上の問題の一つであり, それを防ぐ接ぎ木栽培技術の確立が望まれている。一方, ピーマンやトウガラシには, 疫病や青枯病に抵抗性をもつものもあるが, 台木として利用する場合の穂木への影響は明らかにされていない。そこで, パプリカに *C. annuum* L. を台木として接ぎ木した場合, 台木の違いが生育や収量などに及ぼす影響を調査したので報告する。

## 1. 材料および方法

穂木は‘スーザン’を, 台木は第1表に示した10品種を供試し, また, 接ぎ木をしない‘スーザン’の自根も参考区として設定した。2001年2月1日に128穴のセルトレイに播種し, 同年3月6日に斜め合わせ接ぎで接ぎ木した。養生方法は, 接ぎ木後3日間25℃恒温で, 750lux連続照明下に置き, その後自然光を遮光しながら順化した。順化終了後, 12cmポリポットに鉢上げして育苗した。なお, 接ぎ木前と順化終了後の育苗は, 加温により最低気温が10℃を保つトンネル内で実施した。定植は同年4月6日とした。栽植様式は, 畦幅120cm, 株間30cm, 1条植えで, 2本仕立てとした。施肥量は, 10a当たり基肥でN-P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>-K<sub>2</sub>O=30kg-30kg-30kg, Ca=150kgとした。本圃の保温方法は, 塩化ビニルによる一重被覆とし, 高温期の遮光は, 遮光率50%の黒寒冷紗を用い, 7月2日から9月27日まで終日被覆とした。収穫は11月10日までとした。試験規模は, 接ぎ木に供した苗数が21個体, 本圃での収量試験が1区5株の3反復とした。

## 2. 結果および考察

1) 苗の生育: 接ぎ木時において, 穂木に使用する

‘スーザン’は茎径が2.86mmと太かった。接ぎ木活着率は, ‘スケッチC’が100%と高く, 接ぎ木時の茎が細い品種ほど低かった ( $r=0.768$ , 1%水準で有意) (第1表)。2) 定植後の穂木の生育: 枝長は摘心までの期間を通して台木間差があり, ‘伏見甘長’が長い傾向にあった。穂木の茎径も収穫終了までの期間を通して台木間差があり, ‘伏見甘長’などが太い傾向にあった。しかし, 節数には台木間差は認められなかった (第1表, 一部データ略)。3) 収量および果実品質: 収量, 収穫果数および1果重に台木間差があり, 収穫始めから8月までの期間に台木の影響が強かった。また, 収量, 収穫果数ともに‘伏見甘長’や‘スケッチC’が多く, 収穫果数が多いほど多収であった ( $r=0.937$ , 1%水準で有意)。一方, 果実品質において, 糖度は6~7%と台木による差はなく, また, 商品果率でも差は認められなかった (第1表)。

以上の結果から, パプリカの接ぎ木において, 穂木, 台木を同日に播種すると, パプリカ‘スーザン’は他の *Capsicum annuum* L. に比べて茎が太くなり, 穂木と台木における茎径の差が接ぎ木活着率に影響を及ぼすことが明らかになった。また, 果実品質では台木による差はなかったが, 穂木の生育や収量に台木間差が認められ, 収穫果数が多いほど収量も多くなる傾向を示した。特に8月までの期間において台木の影響は強かった。よって, パプリカの接ぎ木では, 接ぎ木活着率, 穂木の生育および収量において台木の影響を受け, これらの点から‘スケッチC’が最も台木に適し, 次いで‘伏見甘長’が適していると考えられた。

第1表 台木の違いが接ぎ木活着率, 穂木の生育, 収量および果実品質に及ぼす影響

品種 <sup>a)</sup>	接ぎ木時の 茎径 (mm) <sup>b)</sup>	接ぎ木 活着率 (%) <sup>c)</sup>	穂木の生育 <sup>d)</sup>		収量 (t/10a)		収穫果数 (個/株)		1果重 (g)	糖度 (%)	商品果率 <sup>e)</sup> (%)
			枝長 (cm)	茎径 (mm)	上期 <sup>e)</sup>	全期	上期	全期			
細八房	2.06±0.22	57.1	147	24.8	4.23	6.98	8.33	17.9	140	7.2	91.1
立八房	2.05±0.12	77.8	139	20.9	3.89	6.41	7.73	17.8	130	6.6	87.1
札幌大長	2.37±0.19	85.0	143	23.5	4.09	5.97	8.63	15.4	140	6.6	91.9
伏見甘長	2.16±0.12	81.0	161	24.8	4.85	7.46	9.33	18.6	144	6.6	83.1
ししとう	2.17±0.21	76.2	159	24.3	4.44	6.86	8.47	17.1	144	6.6	90.4
ピッコロ	2.31±0.18	90.5	159	21.9	4.46	7.09	7.87	17.8	143	7.0	86.5
ベルホマレ	2.62±0.11	95.2	150	21.3	4.41	6.65	7.27	15.1	158	6.4	88.7
ベルマサリ	2.51±0.17	95.2	158	24.7	4.76	6.66	8.20	15.5	155	6.4	91.0
スケッチC	2.43±0.19	100	145	21.3	4.57	7.27	8.93	19.3	136	6.6	88.6
スーザン (共台)	2.86±0.17	95.2	149	22.8	3.65	5.42	6.00	12.4	157	6.5	88.7
スーザン (自根)	—	—	154	21.1	2.79	4.14	4.67	9.2	162	5.9	92.4
有意性検定 <sup>f)</sup>	—	—	**	*	**	**	**	**	**	ns	ns
LSD	—	—	16	2.7	0.78	1.81	1.74	6.0	22	—	—

注) a) 土壤病害抵抗性: ベルホマレ, ベルマサリは疫病, スケッチCは疫病および青枯病, その他の品種は青枯病に抵抗性を示す。

b) 双葉と本葉第1葉の中間の位置を測定, 数値は平均値±標準偏差。c) 順化時における萎れの無い株の割合。

d) 9月5日測定, 茎径は穂木の本葉第4葉と第5葉の着生位置の中間を測定。

e) 収穫始めから8月まで。f) 尻腐れ果, 裂果および扁平などの形の悪い果実を除いた果数の割合。

g) \*\*は1%水準で有意性有り, \*は5%水準で有意性有り, nsは有意性無し, —は検定できない。